

調査報告

くらしの助け合い活動の充実に向けて —和歌山中央医療生活協同組合 組合員アンケート調査報告—

宮下 聖史*・佐藤 卓利**・久保田 泰造***

要旨

この報告書は、2017年11月から2018年1月までの期間、和歌山中央医療生活協同組合の組合員約3,000名を対象に取り組みられたアンケート調査（「本調査アンケート」）のまとめである。はじめには、立命館大学を中心とした研究者と和歌山中央医療生活協同組合との共同研究の経過と成果を整理している。続く第1章では、「本調査アンケート」の単純集計表を示している。ここでは、回答者の基本属性、外出の頻度や手段、友人・知人とのつながり、医療や介護の利用実態や健康状態、地域づくり、医療生協の事業への参加の意向について明らかにする。第2章では、和歌山中央医療生協の総代・支部運営委員・班長など中核的な担い手を対象とした「プレ調査アンケート」と「本調査アンケート」のいくつかの項目のうち、一連の調査研究の主要な論点である「地域でのつながりや地域づくりの参加意欲、参加の仕方」について比較している。最後に、本報告のまとめと今後の課題を示した。

キーワード

地域包括ケア、医療福祉生協、くらしの助け合い、社会的ネットワーク

はじめに—本調査の経緯と問題意識

1. 今回のアンケート実施に至る経緯

この報告書は、2017年11月から2018年1月までの期間、和歌山中央医療生活協同組合の組合員約3,000名を対象に取り組みられたアンケート調査のまとめである。はじめに本調査を取り組

* 執筆者：宮下聖史

所属/職位：立命館大学共通教育推進機構/講師
連絡先：〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
E-mail：s-miya@fc.ritsumei.ac.jp

** 執筆者：佐藤卓利

所属/職位：立命館大学経済学部/教授
連絡先：〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1
E-mail：satoecon@ec.ritsumei.ac.jp

*** 執筆者：久保田泰造

所属/職位：和歌山中央医療生活協同組合/副理事長
連絡先：〒640-8790 和歌山市有本138-14
E-mail：wairyoseikyo-kubota@trad.ocn.ne.jp

むに至った経緯について述べる。

本調査に先立って、2014年10月から12月にかけて、けいはん医療生活協同組合の組合員を対象にアンケート調査を実施した(回答者総数1,778人)。けいはん医療生協は大阪府の寝屋川市、門真市、守口市を定款地域とし、組合員数約1万1千人、診療所3か所を中心に医療と介護の事業を展開している。このアンケート調査の集計と分析結果は、けいはん医療生活協同組合編『医療福祉生協による地域包括ケアの展開』(萌文社、2015年)として出版された。

その後、筆者らは次の調査対象として病院を運営する医療生協を考え、日本医療福祉生活協同組合連合会の東久保浩喜専務の紹介で、和歌山中央医療生活協同組合の久保田泰造専務と連絡を取り、アンケート調査に基づく共同研究を申し入れた。

2016年1月14日(木)に和歌山中央医療生協を訪れ、久保田専務と調査の趣旨について懇談し、病院・診療所等の施設を視察した。その後、アンケート調査の提案を以下のように整理し、理事会での検討を依頼した。

1. 病院を中心に、有本地区に特養・診療所・居宅介護支援事業所・訪問看護ステーション等が立地しており、さらに2016年中にサービス付高齢者向け住宅が建設予定ということ、まさに「医療生協村」ができそうな感じです。これらの集中した医療・介護資源が、地域の広範な人びとにっそう信頼され利用されるために、今後どのような取組が必要かを明らかにすること。
2. 中之島地区に建設予定の「地域ささえ合いセンター」は、和歌山市から3千万円の補助金を受けての事業ですが、行政からの期待が大きい分その事業に対する注文も厳しくなることが予想されます。市民全体の福祉に責任を持つ行政と医療生協の今後の「付き合い方」が注目されます。
3. 病院等が集中している有本地区から遠い所に住んでいる組合員のサービス利用と活動参加を拡大するには、彼らがどのような潜在的ニーズや期待を持っているのか探る必要がありますが、この点からのアンケート項目の検討が必要かと思えます。
4. 今回は、お話をさせていただいた方は久保田専務だけでしたが、現場の職員さんや組合員さんとお話しさせていただく機会が必要かと思えます。また、和歌山市・和歌山県への聞き取りも必要でしょう。
5. 調査期間(事前準備から最終報告書の作成まで)は2年間(2016年1月~2017年12月)としたいと思えます。

2016年6月18日(土)午後、和歌山中央医療生協を訪問し、山本純嗣理事長、久保田泰造専務、葦澤啓輔組織担当と共同研究について相談した。その要旨は以下の通りである。

1. 今後の和歌山中央医療生協の事業と運動の一層の活性化のために、医療・介護・生活支援の一体的提供を具体化する地域包括ケアのあり方を共同で研究します。
2. 組合員・利用者・患者・職員のみなさんの協力を得て、それぞれの意識調査を実施したいと考えています。その規模・範囲・内容については、今後みなさんの意見を聞いて具体化します。
3. その際、お聞きする内容として、医療生協への要望やニーズ調査だけではなく、医療生協で「何をしたいか、何ができるのか」といった希望をお聞きしたいと考えています。
4. 当面は、9月10日（土）に開催される生協強化月間記念講演で、佐藤が「医療福祉生協の地域包括ケア」（仮題）というテーマで、お話しさせていただき、参加者のみなさんからご意見をお聞きしたいと考えています。その際、本調査の準備として、参加者のみなさんにアンケートをさせていただきたいと考えています。

佐藤は、2016年9月10日（土）に開催された「和歌山中央医療生活協同組合 第28回組合員・職員交流集会」で『『医療福祉生協の地域包括ケア』をすすめるために』と題して講演し、参加した組合員に共同研究のねらいについて以下のように説明した。

私たち立命館大学の研究者が皆さんと共有したい問題意識は、以下の5点です。

1. 医療福祉生協研究の新しいモデルを作ります。
2. それは研究者だけの一方的調査でも請負調査でもない、組合員とともに進める調査です。
3. このアンケート調査で組合員とともに地域ニーズや組合員ニーズを分析します。
4. そしてニーズの分析に基づいて和歌山医療生協の事業の方向性を見出します。
5. さらにその研究成果を組合員だけではなく、広く社会に発信します。

この「交流集会」で実施した最初のアンケートのねらいは、ここに参加した組合員が医療生協活動の中核的な集団であって、2017年に実施予定の「本アンケート調査」において主たる担い手となってくれる層でもあると考え、組合員が医療生協に何を期待し、またどのような貢献をしたいのか、すなわち組合員の潜在的なニーズを探る「アンケート」を作成する、そのための素材を提供してもらうということであった。

アンケートでは、問1「性別」、問2「年齢」、問3「所属する支部」、問4「利用している和歌山医療生協の医療サービス」、問5「利用している和歌山医療生協の介護・福祉サービス」、問6「現在参加している医療生協活動」、問7「今後参加したい医療生協活動」、問8「現在の生活で困っていること」、問9「今後の事業活動と運動に対する意見」、問10「医療・介護・くらしに関する行政への意見」の10の質問が設定され、問1から問7までは選択肢、問8から問10までは自由記述とした。

当日の参加者225名のうち191名から回答が寄せられた。191名の内訳は、男性67名、女性121名、無回答3名。年齢別では、20歳代から50歳代までが全体の14%、60歳代が22%、70歳代が47%、80歳代以上が15%、無回答が2%であった。このアンケートの集計結果の概要が、和歌山中央医療生協の機関紙「健康とくらし」第249号(2017年3月)に掲載された。

この概要の最後の部分を引用する。

「自由記述欄では、医療生協の医療・介護施設の拡大・充実を求める意見や、現在すすめられている医療や介護、社会保障制度の改悪にたいする怒りや改善要求、それとともに、将来にたいする日常生活への不安も多く寄せられた。これからの年金のことや自身の健康状態、老々世帯で生活していく上での不安などが多く目立った。また一方で、これまで培ってきた経験を活かし、『今こそ医療生協の出番』ととらえ、『生協だからできる』人と人とのつながりを大切に、地域の人々の困難や不安を解決できるとりくみをもっと広げていこうという前向きな意見も多くみられた」。

2. アンケートの目的とプレ調査の実施

2017年5月21日(日)、「組合員アンケートの概要についての説明とお願い」を和歌山医療生協理事会に提出し、その中でアンケートの目的、日程、対象とサンプル数、体制について提案した。以下にその骨子を示す。

1. アンケートの目的

- 1) アンケート活動(アンケート項目の議論、アンケートの配布と回収、結果の分析とまとめなど)を通して組合員のつながりを深める。
- 2) アンケートにより把握した組合員のニーズ(支援を受けたい、支援をしたいなどの)を助け合い活動に活かす。
- 3) 組合員がより積極的に医療生協の活動に参加したいと思うようになることで、活動の範囲を広げさらには後継者づくりに活かす。

2. 日程

- 6月3日(土) 理事会で議論、総代会への報告案作成
- 6月25日(日) 総代会での報告と議論
- 7月～8月 アンケート項目の作成作業、アンケートの配布体制の準備(含む学習会)
- 9月9日(土) 組合員・職員交流集会でアンケートのプレ実施
- 10月～11月 アンケートの本格的実施

3. 対象とサンプル数

- 1) 対象 手配りの「健康とくらし」を受け取っている組合員で、21の地域支部に所属する人。
- 2) 3,000名程度。

4. 体制

「健康とくらし」の手配り配達者930名が、自身を含めてそれぞれ3名に配布し回収。

6月25日（日）の総代会で、佐藤がアンケート調査についての協力をお願いし、その後立命館大学の研究者と和歌山中央医療生協の担当者による研究会でアンケートの最終案をまとめた。その要旨を以下に示す。

本調査のアンケートについて

1. 組合員の特性を把握するため、「和歌山県高齢者等生活意識調査（高齢者一般調査）」および和歌山市「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の項目と同内容の項目を入れて比較する。
2. 居住地の選択肢は久保田専務が作成する。
3. 地域活動への参加希望者には名前と連絡先を書いてもらう。アンケート自体は無記名のため、別紙に記入してもらう。
4. 自由回答として、「組合員として何がしたいか」「医療生協として何が必要か」を聞く。
5. 生活課題、不安に思うことを聞く。
6. アンケートの分量はA3両面で2枚。
7. 7月中旬に再度整理して、理事会にて意見をもらう。

このアンケートを9月9日（土）に開催された「第29回組合員・職員交流集会」でプレ実施した。交流集会に参加した組合員は、総代・支部役員等の中核的な活動層であり、この部分をもって、医療生協組合員の一般的な意識を代表するものとは言えないことは、アンケート調査を取り組むに当たって認識されていたことである。したがって一般住民との比較において組合員の特徴を見出すことが課題であるとの認識を持って、「和歌山県高齢者等生活意識調査（高齢者一般調査）」および和歌山市「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の項目と同内容の項目を入れ、一般住民と比較可能なアンケートを作成した。

交流集会参加者対象の「本調査（プレ実施）」の分析結果については、和歌山中央医療生協が和歌山市の委託を受け実施している「地域支えあいセンター虹」の事業分析とともに、「医療福祉生協の地域包括ケアと地域まるごと健康づくりの検討—和歌山中央医療生協との共同による調査・研究—」と題する論文としてまとめることができた。これは生協総合研究所の研究助成を受けて実現したものであり、かかる研究成果は、宮下が2018年3月2日（金）に開催された「第14回生協総研賞助成事業報告会」（東京都千代田区・プラザエフ）で報告した。その報告書は、公益財団法人生協総合研究所『生協総研賞・第14回助成事業研究論文集』（2018年2月）に掲載された¹。

3. 本調査アンケートの実施

本調査によるアンケートは、理事会での議論、各地区協議会や支部運営委員会を通じて、支部・班長や「健康とくらし」配布協力者より配布・回収の協力を得た。回収は2018年2月までに完了し、回収総数は2,562件であった。

かかる「本調査アンケート」の単純集計の結果が出そろったのち、「第30回組合員・職員活動交流集会」(2018年9月15日)にて宮下が、「プレ調査アンケート」と「本調査アンケート」の一部の項目の比較を行い、報告をした。加えて、一連のアンケートの配布や回収に協力していただいた組合員の皆さんとともに、配布・回収のプロセスで他の組合員と関わるなかで感じたこと、またアンケート結果を今後の医療生協の活動にどのように活かすことができるか、といった点を議論するための座談会を開催した。立命館大学からは佐藤と宮下、和歌山中央医療生協からは、久保田をはじめ理事や職員、組合員合わせて14名が参加した。

以上のような経緯で進めている一連の共同研究のなかで、今回は以下の内容を示すことにしたい。まず第1章にて、「本調査アンケート」の単純集計表を示す。ここでは、回答者の基本属性、外出の頻度や手段、友人・知人とのつながり、医療や介護の利用実態や健康状態、地域づくり、医療生協の事業への参加の意向について明らかにする。

続く第2章では、和歌山中央医療生協の総代・支部運営委員・班長など中核的な担い手を対象とした「プレ調査アンケート」(第29回組合員・職員交流集会、2017年9月9日実施)と「本調査アンケート」のいくつかの項目のうち、一連の調査研究の主要な論点である「地域でのつながりや地域づくりの参加意欲、参加の仕方」について比較する。この分析結果は、宮下が第30回組合員・職員活動交流集会(2018年9月15日)にて報告した内容にもとづいている。最後に、本報告のまとめと今後の課題を示す。

第1章 本調査アンケートの集計結果

ここでは、「本調査アンケート」の単純集計の結果と概要の分析を示す。改めて、今回の「組合員アンケート」の目的は以下の通りである。

- (1) アンケート活動を通じて組合員のつながりを深める。
- (2) アンケートにより把握した組合員の要求を事業や運動に活かすとともに、アンケートに示された「支援を受けたい」「支援をしたい」などの具体的な声を「暮らしの助け合い活動」につなげる。

1. 回答者の基本属性について

問1. あなたの性別

	回答	比率
1. 男性	787	30.7%
2. 女性	1,757	68.6%
無回答	18	0.7%
合計	2,562	

問2. あなたの生まれた年

	回答	比率
大正10年～大正14年	17	0.7%
昭和元年～昭和20年	1,220	47.6%
昭和21年～昭和40年	883	34.5%
昭和41年～昭和64年	175	6.8%
平成以降	25	1.0%
無回答または不明	242	9.4%
合計	2,562	

あなたの年齢

	回答	比率
40歳未満	78	3.0%
40歳以上～50歳未満	101	3.9%
50歳以上～60歳未満	182	7.1%
60歳以上～70歳未満	573	22.4%
70歳以上	1,524	59.5%
無回答	104	4.1%
合計	2,562	

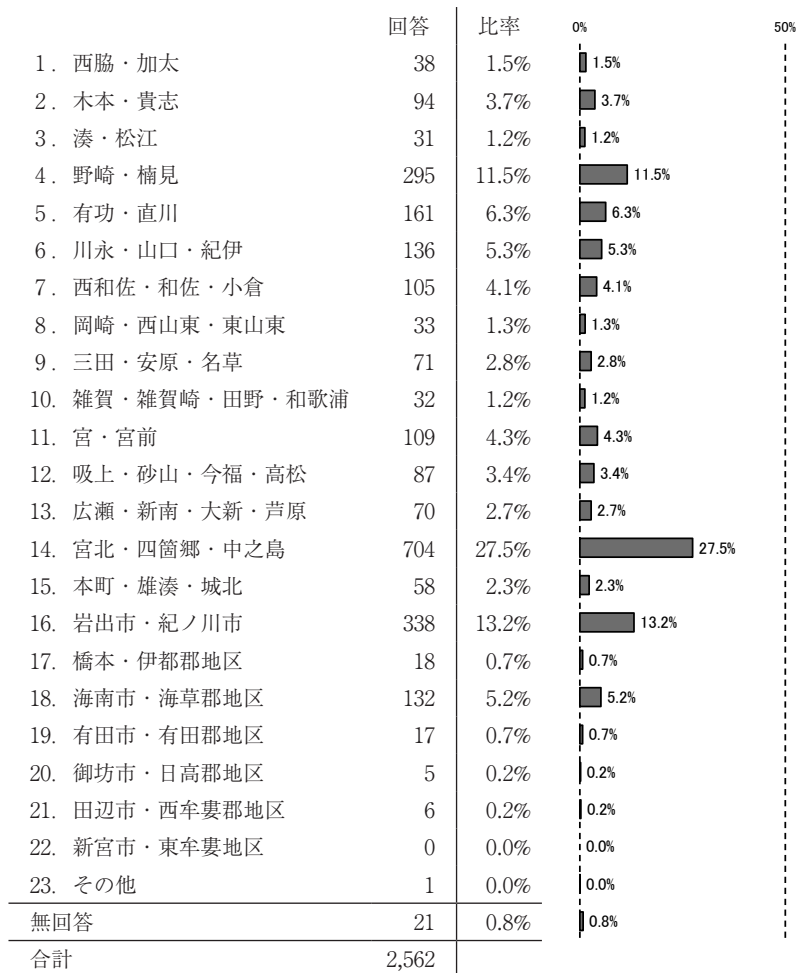
問3. 組合員になって何年になりますか。

	回答	比率
1. 1年未満	124	4.8%
2. 1から3年	260	10.1%
3. 4から10年	532	20.8%
4. 11年から20年	515	20.1%
5. 20年以上	927	36.2%
無回答	204	8.0%
合計	2,562	

問4. あなたの世帯は、次のうちどれにあてはまりますか。

	回答	比率
1. 単身	486	19.0%
2. 夫婦のみ（配偶者は65歳以上）	915	35.7%
3. 夫婦のみ（配偶者は64歳以下）	159	6.2%
4. 二世世代家族（世帯員全員が65歳以上）	75	2.9%
5. 二世世代家族（64歳以下の家族がいる）	588	23.0%
6. 三世世代家族	92	3.6%
7. 配偶者、親または子以外の高齢者（65歳以上）と同居	43	1.7%
8. その他	119	4.6%
無回答	85	3.3%
合計	2,562	

問5. あなたのお住まいの地域はどこですか。



〈分析〉

ここでは回答者の基本属性を聞いている。男性（30.7%）に対して女性（68.6%）が多い。年代をみると、60歳以上70歳未満が22.4%、70歳以上が59.5%と多く、両者を合わせて8割以上となる。また、組合員になってからの年数は20年以上が36.2%となり、全体として高齢、かつ長期の組合員が多くなっている。

世帯の累計としては、夫婦のみ（配偶者は65歳以上）が35.7%と最も多く、二世世代家族（64歳以下の家族がいる）が23.0%と続く。単身世帯も19.0%と2割近くに及んでいる。

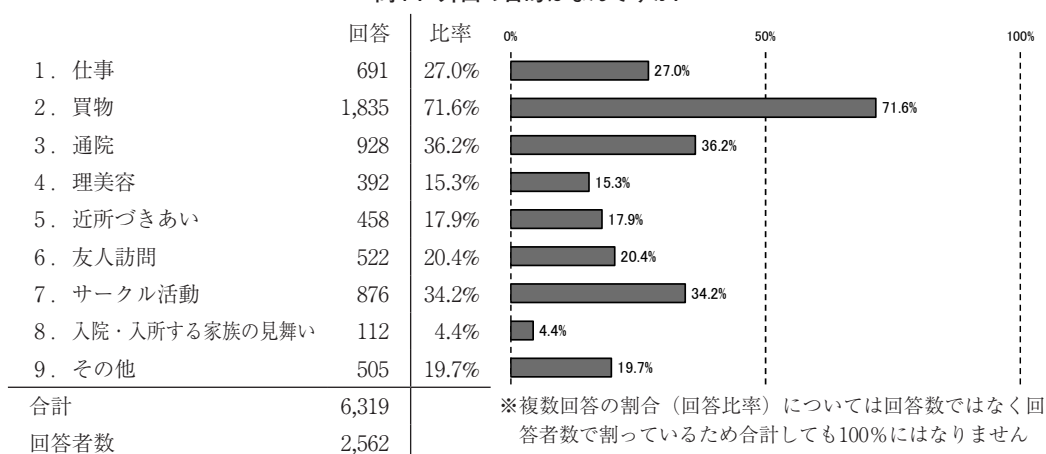
居住地域としては、宮北・四箇郷・中之島が27.5%を占め、岩出市・紀ノ川市が13.2%などと続く。医療生協の施設周辺に組合員が多くいる結果となっている。

2. 外出の頻度と手段について

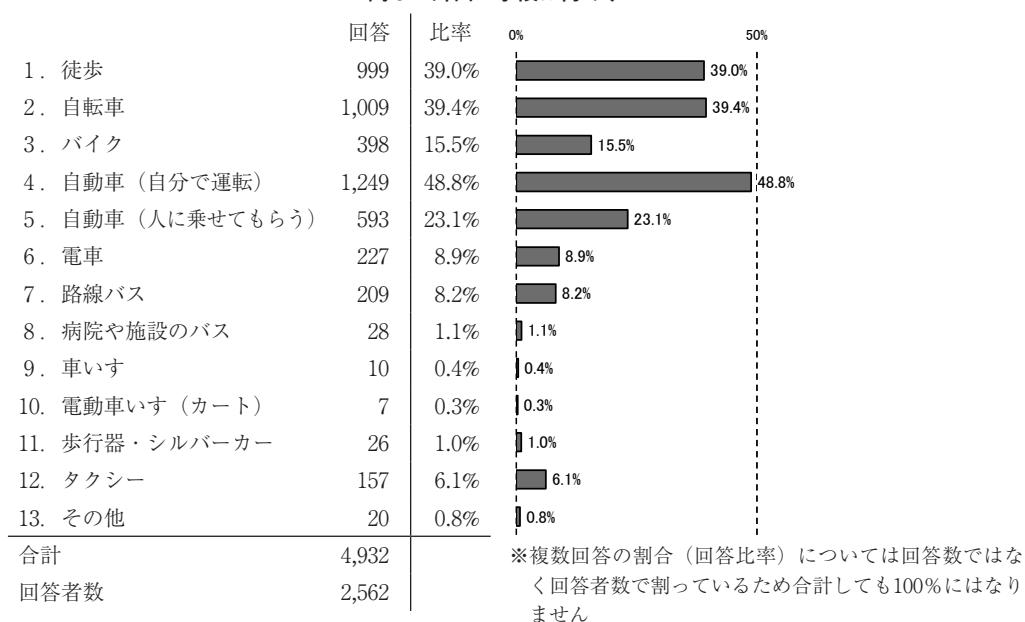
問6. あなたは、日頃どの程度外出をしていますか。

	回答	比率
1. ほとんど毎日	1,396	54.5%
2. 週に3～4回程度	688	26.9%
3. 週に2回程度	275	10.7%
4. 週に1回程度	73	2.8%
5. 月に1～2回程度	44	1.7%
6. ほとんどない	32	1.2%
無回答	54	2.1%
合計	2,562	

問7. 外出の目的はなんですか。



問8. 外出の手段は何ですか。

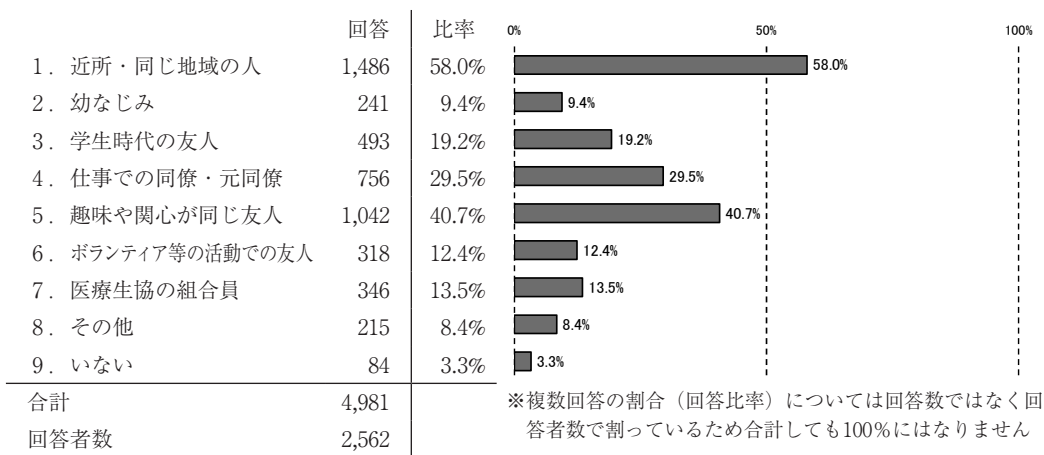


〈分析〉

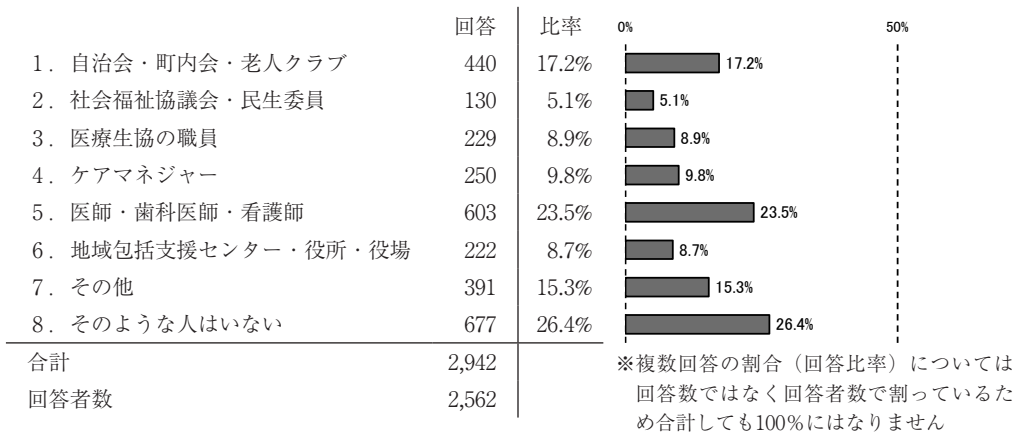
外出の頻度については、ほとんど毎日が54.5%、週に3～4回程度が26.9%などと続く。外出の目的(複数回答)は、買物、通院、サークル活動などと続く。手段(複数回答)としては、自動車(自分で運転)、自転車、徒歩などとなっている。

3. 友人・知人とのつながり、医療や介護の利用実態や健康状態

問9. よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。



問10. 家族や友人・知人以外で、何かあったとき相談する相手を教えてください。



問11. あなたは、日頃から身近に診療、健康相談、薬の説明などを受けることができる、かかりつけの医師はいますか。

	回答	比率
1. いる	2,193	85.6%
2. いない	318	12.4%
無回答	51	2.0%
合計	2,562	

問12. 問11で「1. いる」と答えられた方にお聞きます。その医師は、医療生協の医師ですか。

	回答	比率
1. はい	787	35.9%
2. いいえ	1,323	60.3%
無回答	83	3.8%
合計	2,193	

問13. あなたは、日頃の程度通院（医療機関の受診）をしていますか。

	回答	比率
1. めったにない(年に1回あるかないか)	287	11.2%
2. 年に数回程度	549	21.4%
3. 月に1回程度	1,093	42.7%
4. 月に2～3回程度	381	14.9%
5. 週に1回程度	78	3.0%
6. 週に数回程度	47	1.8%
7. ほぼ毎日	6	0.2%
無回答	121	4.7%
合計	2,562	

医療生協／医療生協以外

	回答	比率
1. 医療生協の事業所	98	3.8%
2. 医療生協以外の事業所	159	6.2%
無回答	2,305	90.0%
合計	2,562	

問14. あなたやあなたのご家族で介護サービスの利用をされていますか。

	回答	比率
1. 利用していない	1,962	76.6%
2. 利用している	440	17.2%
無回答	160	6.2%
合計	2,562	

介護サービスの利用先

	回答	比率
1. 医療生協の事業所	66	15.0%
2. 医療生協以外の事業所	126	28.6%
無回答	248	56.4%
合計	440	

対象者の年齢

	回答	比率
40歳以上～65歳未満	7	1.6%
65歳以上～70歳未満	8	1.8%
70歳以上～75歳未満	16	3.6%
75歳以上～80歳未満	54	12.3%
80歳以上～85歳未満	84	19.1%
85歳以上～90歳未満	70	15.9%
90歳以上	91	20.7%
無回答または不明	110	25.0%
合計	440	

対象者の介護度

	回答	比率
要介護①	66	15.0%
要介護②	66	15.0%
要介護③	44	10.0%
要介護④	32	7.3%
要介護⑤	23	5.2%
要支援①	25	5.7%
要支援②	32	7.3%
無回答または不明	152	34.5%
合計	440	

サービスの内容

	回答	比率	
デイサービス	133	30.2%	30.2%
ショートステイ	19	4.3%	4.3%
老人ホームなど施設入所	29	6.6%	6.6%
ヘルパー訪問	32	7.3%	7.3%
運動・リハビリ・マッサージ	40	9.1%	9.1%
家事援助	26	5.9%	5.9%
入浴介助	9	2.0%	2.0%
福祉用具貸与	25	5.7%	5.7%
訪問看護・往診など	10	2.3%	2.3%
その他	8	1.8%	1.8%
合計	331		
回答者数	440		

※複数回答の割合(回答比率)については回答数ではなく回答者数で割っているため合計しても100%にはなりません

利用回数

	回答	比率
5 回未満	76	17.3%
5 回以上～10回未満	77	17.5%
10回以上～20回未満	51	11.6%
20回以上～30回未満	18	4.1%
30回以上	32	7.3%
無回答または不明	186	42.3%
合計	440	

問15. あなたの現在の健康状態についてお答えください。

	回答	比率
1. たいへん健康である	264	10.3%
2. 大した病気や障害もなく普通に生活している	1,309	51.1%
3. 何らかの病気や障害はあるが、日常生活はほぼ自分で行えるし、外出も一人で行える	801	31.3%
4. 何らかの病気があるが、生活に誰かの手助けが必要である	117	4.6%
無回答	71	2.8%
合計	2,562	

問16. あなたの幸せ度についてあなたは、現在どの程度幸せですか

	回答	比率
0 点	8	0.3%
1 点	7	0.3%
2 点	14	0.5%
3 点	47	1.8%
4 点	39	1.5%
5 点	394	15.4%
6 点	173	6.8%
7 点	335	13.1%
8 点	631	24.6%
9 点	313	12.2%
10点	469	18.3%
無回答	132	5.2%
合計	2,562	

〈分析〉

よく会う友人・知人は「近所・同じ地域の人」が58.0%、「趣味や関心が同じ友人」が40.7%などと続く。「医療生協の組合員」は13.5%であった。他方で、「いない」という回答者は3.3%であった。

家族や友人・知人以外での相談相手は「いない」が最も多く26.4%、次いで「医師・歯科医師・看護師」が23.5%、「自治会・町内会・老人クラブ」が17.2%と続く。かかりつけの医師については「いる」(85.6%)、「いない」(12.4%)で、「いる」との回答者のうち、医療生協の医師であるとの回答は35.9%、いいえは60.3%であった。

通院の頻度については、「月に1回程度」が42.7%、「年に数回程度」が21.4%などとなっている。回答者自身、また家族での介護サービスの利用については、「利用していない」が76.6%と全体の8割近くに及んでいる。「利用している」は17.2%であった。利用者の利用先や年齢、介護度等は問14の結果を参照。

回答者の健康は、「大した病気や障害もなく普通に生活している」が51.1%、また幸福度についても8～10点の比率が高くなっている。

4. 地域づくり、医療生協の事業への参加の意向

問17. あなたは、地域で、住民の生活を支援するための事業が運営されることになった場合、そのような事業への参加に興味がありますか。

	回答	比率
1. ある	1,146	44.7%
2. ない	1,238	48.3%
無回答	178	6.9%
合計	2,562	

問18. 問17で「1. ある」と答えられた方におたずねします。どのような参加の仕方を希望しますか。

	回答	比率
1. ボランティアとして、自分の時間に合う範囲でできることをしたい	788	68.8%
2. 給与等を伴う仕事になるならば関わってみたい(短時間のパート・アルバイトを含む)	115	10.0%
3. 事業の立ち上げや運営などにも関わってみたい	20	1.7%
4. その他	98	8.6%
無回答	125	10.9%
合計	1,146	

問19. 医療生協が、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に参加者として参加してみたいと思いますか。

	回答	比率
1. ぜひ参加したい	229	8.9%
2. 参加してもよい	1,347	52.6%
3. 参加したくない	708	27.6%
無回答	278	10.9%
合計	2,562	

問20. 医療生協が、健康づくり活動や趣味等のグループ活動を行って、いきいきした地域づくりを進めるとしたら、あなたはその活動に企画・運営（お世話役）として参加してみたいと思いますか。

	回答	比率
1. ぜひ参加したい	64	2.5%
2. 参加してもよい	831	32.4%
3. 参加したくない	1,303	50.9%
無回答	364	14.2%
合計	2,562	

問21. 現在の生活で困っていること。（自由記述. 今回は割愛）

問22. 今後の医療生協の取り組みのなかで、あなたはどんなことができますか、したいですか。

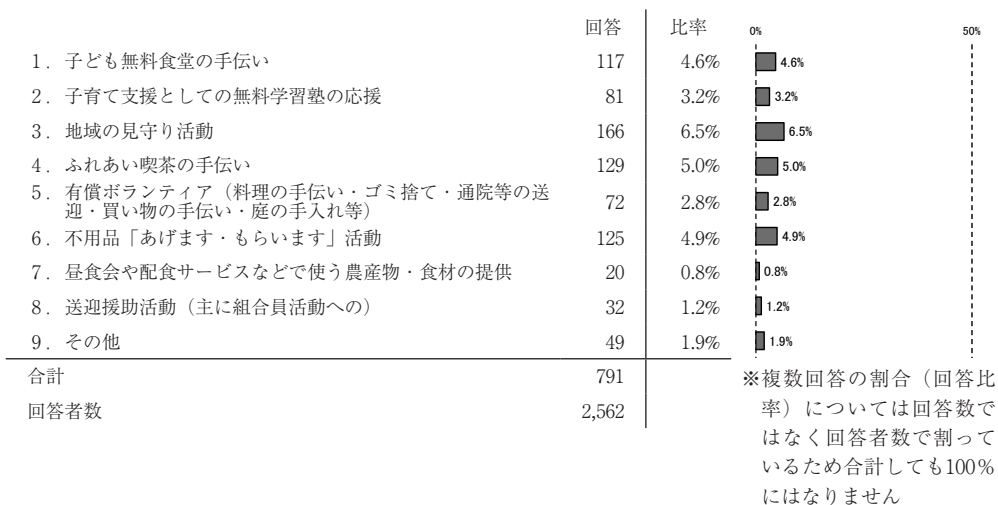
(1) 既存の取り組み

	回答	比率
1. 組合員検診・健康チェック・ヘルスアップチャレンジ(健康づくり)	659	25.7%
2. さまざまな社会保障・平和を守り発展させる活動・社会貢献活動	162	6.3%
3. 支部活動・班活動	160	6.2%
4. 機関紙配布等	278	10.9%
5. 通信講座・各種講座の受講	119	4.6%
6. ボランティア活動	206	8.0%
7. サークル活動	197	7.7%
8. 配食弁当サービスの手伝い	38	1.5%
9. 昼食会の手伝い	84	3.3%
10. サロン・たまり場活動の手伝い	98	3.8%
合計	2,001	
回答者数	2,562	

※複数回答の割合（回答比率）については回答数ではなく回答者数で割っているため合計しても100%にはなりません

今後の医療生協の取り組みのなかで、あなたはどんなことができますか、したいですか。

(2) 新規の取り組み(案)



〈分析〉

助け合い、支え合いの地域づくりや医療生協の各種事業への参加の意志や参加の仕方について聞いている。地域における住民支援の事業への参加の興味については、「ある」が44.7%、「ない」が48.3%でほぼ拮抗している。他方で、医療生協による健康づくり活動やグループ活動については、「ぜひ参加したい」が8.9%、「参加してもよい」が52.6%であり、合わせると6割を超えている。

医療生協の既存の取り組みのなかでできることは、「組合員検診」が25.7%、「機関紙配布等」が10.9%などと続く。新規の取り組み(案)については、「地域の見守り活動」が6.5%で唯一5%を超える比率となっている。

第2章 地域でのつながりや地域づくりの参加意欲、参加のあり方 —プレ調査と本調査の比較分析、座談会の報告—

1. プレ調査と本調査の比較

本章では、①第29回組合員・職員活動交流集会にご参加の皆さんへのアンケート(2017年9月9日、回答者209名)と、第1章で示したアンケート=②支部・班長さんや「健康とくらし」配布協力者より配布・回収のご協力を得た「組合員アンケート」(2017年11月から2018年1月末、回答者2,557名)の2つのアンケートのうち、いくつかの項目を比較検討する。以下に両者のアンケートを区分して、①、②と表記する。

1) 上記①のアンケート結果は、「医療福祉生協の地域包括ケアと地域まると健康づくり

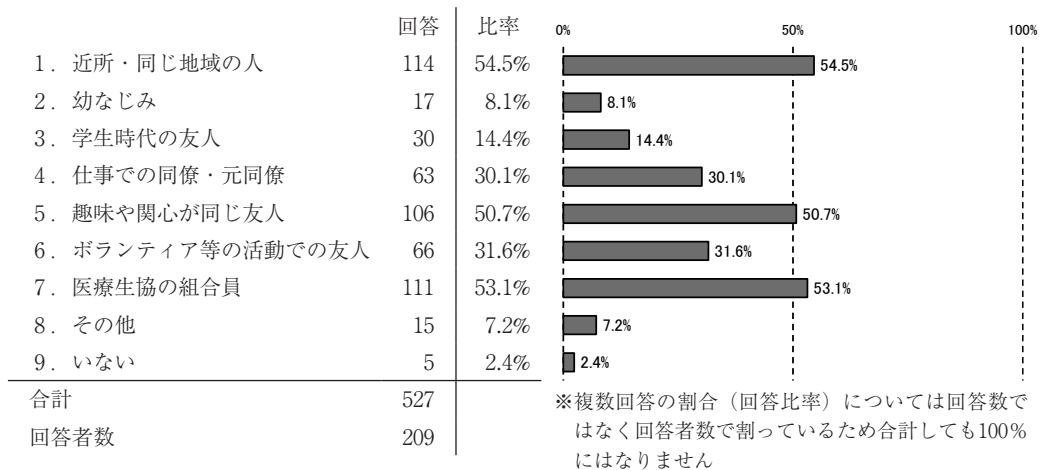
の検討—和歌山中央医療生協との共同による調査・研究—」（『生協総研賞・第14回助成事業研究論文集』2018年）にまとめ、和歌山中央医療生協・第62回通常総代会議案書（2018年6月24日）の資料編に収められている。

上記の「調査・研究」の小括では、「医療生協が地域における人的なつながりの場の1つとして機能していることが伺える」との分析結果示された。加えて和歌山県が実施した「和歌山県高齢者等生活意識調査（高齢者一般調査）」（2017年3月）と比較して、和歌山中央医療生協の組合員（交流集会の参加者）の良好な健康状態や地域づくりへの高い参加意欲が示された（118ページ）。

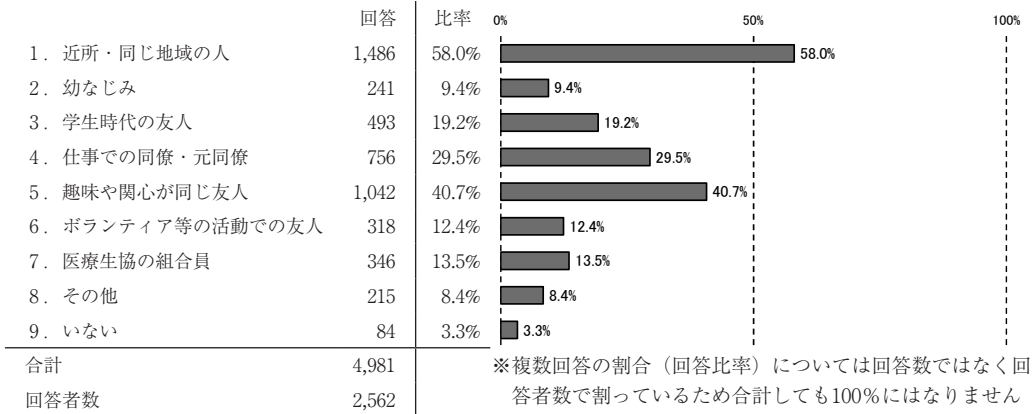
本稿では、2つのアンケート結果を通じて、「くらしの助け合い」に寄与と思われる質問項目、1）日常的な交友関係や相談相手、2）医療生協の既存の取り組みで、できること、したいこと、3）医療生協の新規の取り組みで、できること、したいこと、の結果を提示する。次に、4）生活支援事業への興味、5）生活支援事業への参加の仕方、を比較・分析して、運動の課題の一端を示すことにしたい。

1）日常的な交友関係や相談相手

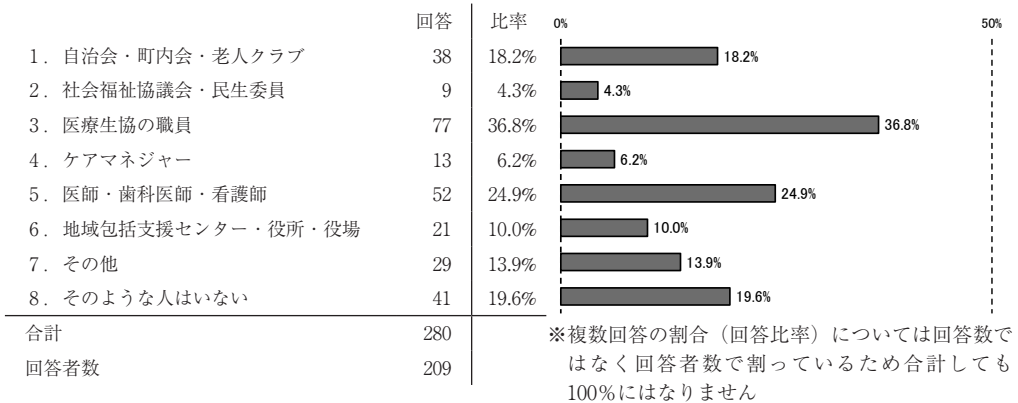
「よく会う友人・知人との関係 ①組合員アンケート（複数回答）」



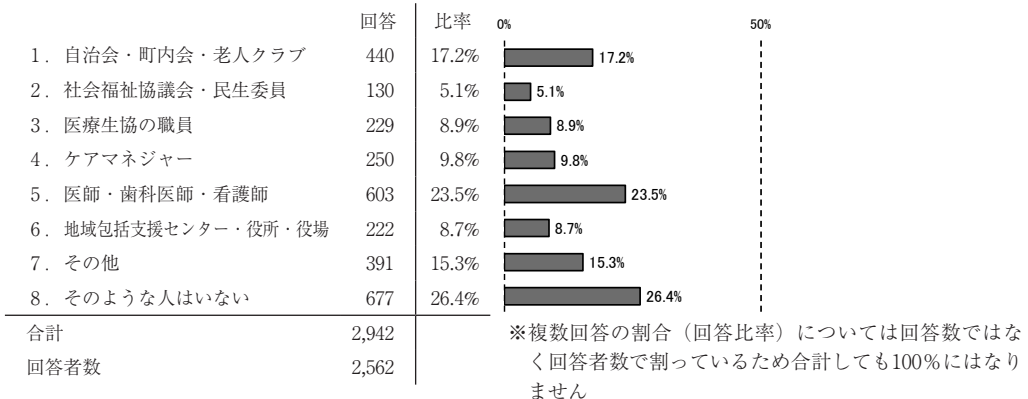
「よく会う友人・知人との関係」②組員アンケート(複数回答)(再掲)



「家族や知人以外での相談相手」①組員アンケート(複数回答)

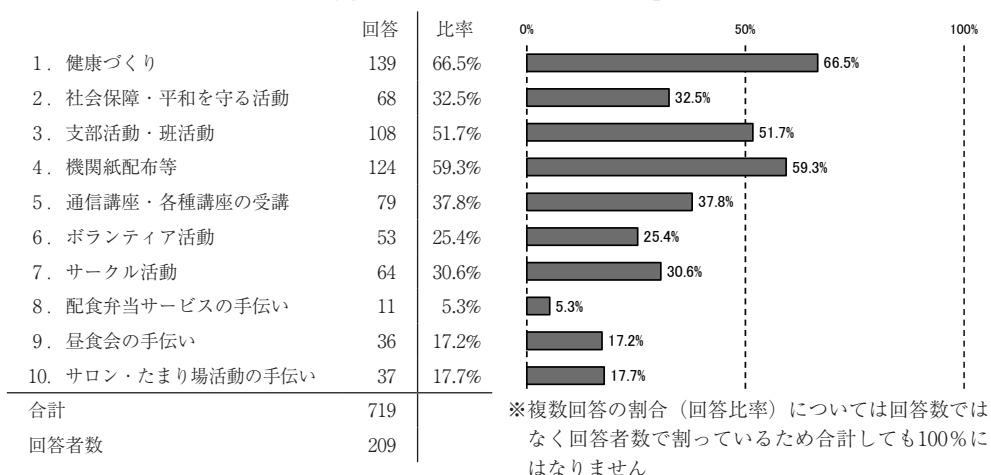


「家族や知人以外での相談相手」②組員アンケート(複数回答)(再掲)

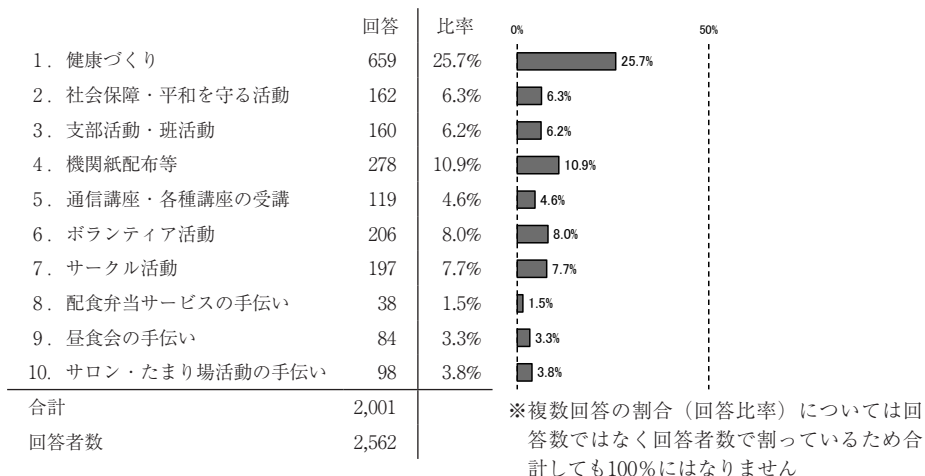


2) 医療生協の既存の取り組みで、できること、したいこと

〔①組員アンケート（複数回答）〕

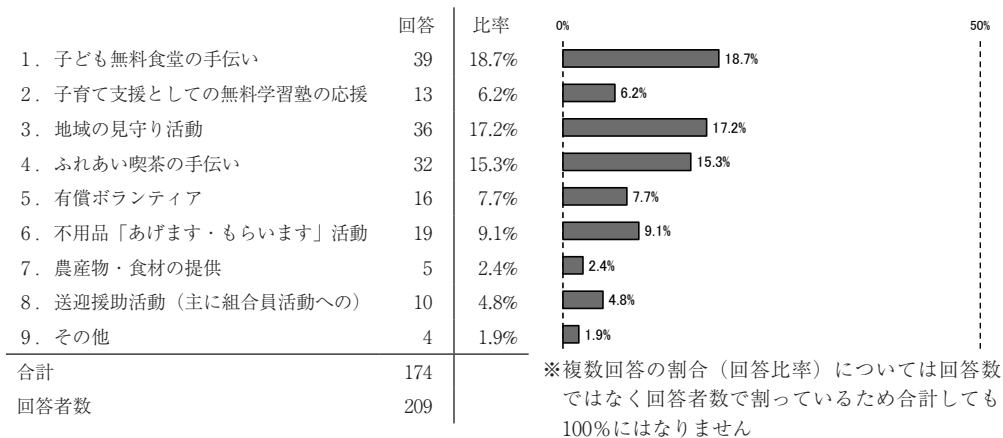


〔②組員アンケート（複数回答）〕（再掲）

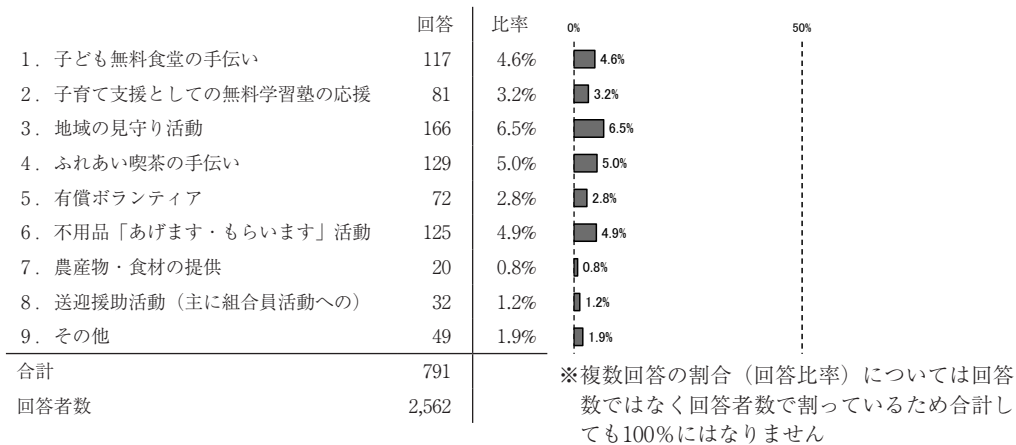


3) 医療生協の新規の取り組みで、できること、したいこと

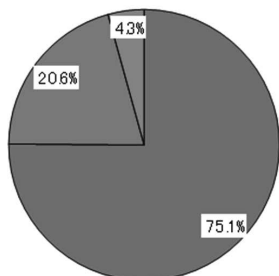
〔①組合員アンケート(複数回答)〕



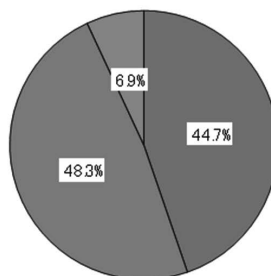
〔②組合員アンケート(複数回答)〕(再掲)



4) 生活支援事業に参加することの興味

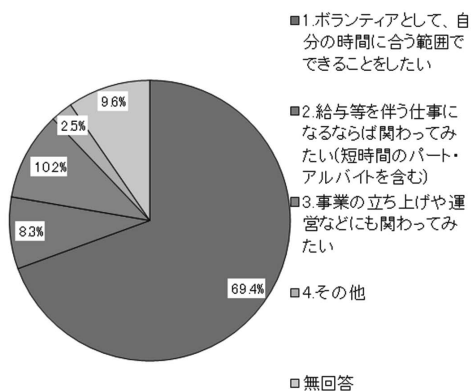


「①組合員アンケート」

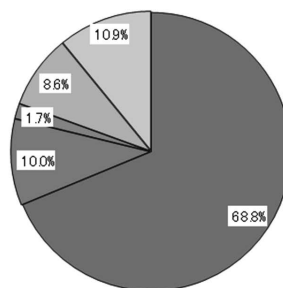


「②組合員アンケート」

5) 生活支援事業への参加の仕方



「①組合員アンケート」



「②組合員アンケート」

2. 座談会での議論（抜粋）

上記アンケート結果を受けて実施した座談会（2019年2月7日）で出された意見を抜粋する。

〈アンケート結果に関して〉

- ①アンケート（プレアンケート調査）と②アンケート（本調査アンケート）を比較すると、地域でのつながりや医療生協の既存・新規の取り組みへの参加の意向に大きな違いがある。①アンケートの回答者が「第29回組合員・職員活動交流集会」に参加した組合員の中核的活動層であるのに対して、②アンケートの回答者が地域に暮らす一般組合員

であることから、①が②よりも取り組みへの参加意欲が高いことは当然と言える。

- 2) ただし、「生活支援事業への参加の仕方」には違いがなく、この点に一般組合員の参加についてのポテンシャルがあるのではないか。
- 3) 思っていたより、①と②の差がない。その差の違いは、診療所が地域にあるかないかの違いではないか。
- 4) 自由回答の内容を地域に下ろして行って揉んでもらいたい。
- 5) 名前を書いてももらった人にはアプローチしないといけない。
- 6) 回答者の6割が70歳以上。今後「この組織は大丈夫か」との心配もある。
- 7) 一概に高齢者だからという見方はしない方がいい。
- 8) 60歳代、70歳代でも元気な人は多いが、長年同じメンバーが活動を担っている。

〈地域支え合いセンター虹の事業に関して〉

- 1) 地域のなかでの医療生協への活動参加の敷居を低くしていく必要がある。
- 2) 連合自治会の理解をえて、回覧板に医療生協の事業情報が載るようになったことの影響は大きい。
- 3) 地域住民にセンターへ来てもらうためには信頼関係の構築が必要。私たちが胸襟を開いて、ウイングを広げていかなければならない。

まとめ

今回のアンケート調査によって、②本調査アンケート回答者に比べて、①組合員・職員交流集會に参加している組合員の方が、活動意欲が高く、また社会的なネットワークを豊富に有していることが明らかになった。中核的な担い手層からより多くの組合員へと活動の輪を広げていくことが課題であろう。

またアンケートからは、長期間にわたって活動を支える組合員が多くいること、それに伴って高齢化が進んでいることが確認できた。全体的にみて回答者の健康状態は良好で、元気な高齢者は活動の担い手であるが、他方で中長期的な視点で見た場合、組織・活動の担い手の確保・育成は避けて通れないであろう。この調査報告が、アンケート活動に参加していただいた組合員みなさんに広く読まれ、今後の医療生協の活動の一助となることを願う。

今後、さらに分析を深めながら、暮らしの支え合い活動の充実に向けた条件を探っていききたい。

注

- 1 宮下聖史・佐藤卓利・小田巻友子・権偕珍・久保田泰造・坂口志津子・葦澤啓輔（2018）「医療福祉生協の地域包括ケアと地域まるごと健康づくりの検討－和歌山中央医療生協との共同による調査・研究－」『生協総研賞・第14回助成事業研究論文集』公益財団法人生協総合研究所, pp104-119.

〔謝辞〕

今回の調査は、一般社団法人日本高齢期運動サポートセンター調査研究助成（「和歌山中央医療生協の地域包括ケア事業の分析」代表 久保田泰造）、立命館大学社会システム研究所プロジェクト研究（代表 佐藤卓利）からの支援を受けて実施することができました。

またアンケートの実施にあたっては、和歌山中央医療生協の多くの組合員の皆さんにご協力をいただきました。記して感謝いたします。

For Enhancement of Life Support Activities:
Wakayama Central Co-operative Association Union Member Questionnaire Result

MIYASHITA Seishi^{*}, SATO Takatoshi^{**}, KUBOTA Taizo^{***}

Abstract

This is a report on a questionnaire survey of around 3000 Wakayama Central Co-operative Association members, conducted from November 2017 to January 2018. It begins by describing the aim of the survey and the basic facts of its implementation. Next, based on the survey results, we describe the attributes of respondents, their frequency of outings and means of accomplishing them, connections with friends and acquaintances, actual health conditions of respondents, attributes of medical and nursing care, awareness of community development, and respondents' intentions of participating in medical co-op activities. We then compare the questionnaire responses of core members of a medical co-op with responses by general union members. The main issue here is the willingness to make connections in the area and participate in community activities. Finally, a summary of the report and future issues are presented.

Keywords

Local comprehensive care, Medical Co-op, Help of life, Social network

* Correspondence to: MIYASHITA Seishi
Lecturer, Institute for General Education, Ritsumeikan University
1-1-1, Noji-Higashi, Kusatsu, Shiga 525-8577, Japan
E-mail: s-miya@fc.ritsumei.ac.jp

** Correspondence to: SATO Takatoshi
Professor, Faculty of Economics, Ritsumeikan University
1-1-1, Noji-Higashi, Kusatsu, Shiga 525-8577, Japan
E-mail: satoecon@ec.ritsumei.ac.jp

*** Correspondence to: KUBOTA Taizo
Vice Chief Director, Wakayama Central Medical Co-operative Association
138-14, Arimoto, Wakayama-city 640-8790, Japan
E-mail: wairyoseikyo-kubota@trad.ocn.ne.jp